



今月のみさとし/蓮は泥土に長養せられて麗花を開く。(ご聖訓 第二巻 44 頁)

東日本大震災 特別慰霊大供養祭

七回忌法要に真心の供養で被災地の復興を祈る



天茶を受けるためにトラックに並ぶ参加者



祈りを込めて海へ撒き供養

震災から 6 年 3 ヶ月が過ぎた 6 月 11 日、七回忌という節目を迎え、宮城県名取市の関天漁港で東北第 2 教区主催の東日本大震災特別供養祭が執り行われた。長老さま、岡野英夫顧問、渡辺孝彦理事長をはじめとする本部役職員 12 名と新潟教区 5 名、群馬教区 4 名、埼玉教区 63 名、東京の各教区より 59 名、そして、地元より 103 名、総勢 246 名の会員が参加した。

当日は、建設中の堤防や住宅など復興の現状がすみずみまで見渡せるような晴天に恵まれ、潮の香りと海風を受けながら厳粛な空気の中で行われた。拝礼行事、

長老さまによる回向文奏上、代表者による献花では、白い菊の花が祭壇に捧げられた。続いて天茶供養では、トラックで運ばれた大量の天茶と、地元会員をはじめ参加者が持参した天茶、合計約 5 トン総ての天茶がなくなるまで、真心込めて撒き供養を行った。

渡辺理事長は挨拶の中で「皆様の真心がお靈魂様に届いたと確信している」と力強く述べた。また、合澤裕行東北第 2 教区長は「一日も早い復興のためにも七回忌を迎えた今、霊界で天茶の尊さを知ったお靈魂様方の喜びを受け止め、生かされている私たちが感謝し合える世の

中を目指し、人の心づくりに貢献させていただきましよう」と、謝辞とともに復興に対する強い決意を述べ、供養祭を締めくくった。

参加者からは「この供養祭のように互いに思いやり、心を合わせることが復興の後押しとなると思う」との感想が上がっていた。

黒姫出張所・御守護神祭

供養良し、飲んで良し



若葉萌える好季節、5 月 20 日、長野県信濃町・黒姫出張所において、第 47 回黒姫弁財天大神例祭及び、第 45 回天囀蔵五柱五成大神例祭が執り行われた。本会からは法主さま、渡辺孝彦理事長、甲信教区会員、また地元からは横川正和信濃町町長など来賓他、天茶耕作者組合

立教 90 年記念事業

めでたく「南棟」が完成

この度、御霊地の「南棟」がめでたく完成した。22 日には落慶式が行われ、同日に、立教 30 年（昭和 33 年）を記念して建てられた御霊地道場の耐震補強工事の起工式も行われた。工事は翌年の平成 30 年 3 月まで続く予定。



員らが参列した。

式典は、各外宮で法主さまによる祝詞奏上、代表者による玉串奉奠など厳かに行われ、良質な天茶の豊作が祈願された。

直会では、法主さまが、「長野県には思い入れがあり、行事がある度に足を運び

勉強させていただきたい」と述べられた。

続いて、横川町長より祝辞をいただき、渡辺理事長が、「天茶というのは供養良し、飲んで良し」と天茶の尊さを述べた。

その後は直会となり、和やかな雰囲気の中、終了となった。

御寺泉涌寺

結縁法要にて泉涌寺護持の誓い

6 月 4 日、御寺泉涌寺において、御寺泉涌寺護持会結縁報告法要・会員各家先亡諸精霊追福法要及び表彰式が執り行われた。今回の結縁者は 8 名、表彰者は 1 支部と 14 名 = 下記リスト参照。

清々しい初夏を迎えた当日、参列者は午前 11 時より霊明殿に昇殿。上村貞郎長老猊下を導師に、職衆の念誦が響きわたる中、渡辺孝彦理事

長に続いて結縁者が焼香に立った。法要後は、藤原博内務局長先達により全員で般若心経を捧げた。続いて、上村長老猊下より、結縁者は結縁之証と折五条を、表彰者は感謝状と記念品をそれぞれ恭しく拝受した。

その後、霊明殿正面で記念撮影、続いて妙応殿にてお斎となり、上村長老猊下は、「今上陛下、宮家の安泰健勝の祈



願に合わせて皆さんの結縁法要と先亡諸霊の追福をさせていただき、解脱金剛さまのご遺志と申せ、大変有り難いこと」と笑顔で述べられた。続いて渡辺理事長は、これから

も泉涌寺の護持に努めていきたいと誓いを述べ、乾杯となった。

結縁者らは泉涌寺より振る舞われた料理を満喫しながら今日の日を喜びあった。

平成 29 年度 護持会 結縁者

山崎 敏司 (秩父中村)	井上 恵美子 (滋賀大津)
中條 二三子 (台東)	八田 富美子 (滋賀大津)
鳥飼 元延 (台東)	梅景 幸一 (滋賀守山)
木下 芳宣 (名古屋千成)	高本 昌則 (島根木次)

平成 29 年度 護持会 表彰者

愛知平和町支部	北見 幸子 (台東)
古姓 敏夫 (川越初雁)	熊澤 則子 (名古屋笹島)
飯塚 健一 (茨城小田)	山田 清恵 (大阪松虫)
松田 佳高 (三鷹連雀)	近藤 峰寛 (奈良生駒・準)
原 真理子 (三鷹連雀)	重賞 廣美 (岡山三和)
中町 恵子 (日本橋中央)	吉見 敏治 (広島可部)
吉田 忠雄 (中野上高田)	村上 説男 (福岡宇美)
志村 孝子 (大岡山)	

御寺泉涌寺護持会員の申込について

- 趣 旨：解脱金剛尊者のご遺志に則り、泉山護持会員を募り、その会費を御寺泉涌寺に献納して泉山護持の精神を具現化するもの。
 - 護持会費：年額 10 万円又は 5 万円（一括納入）。
 - 納入方法：入会時は会員申込書に会費を添え、支部を通して納入ください。次年度からは本部より納付書を送付いたします。
 - 献納時期：11 月、御年祭時。
 - 篤志奉納者：継続会員でなく、希望により任意に納める方のこと。随時受け付けております。金額は 10 万円又は 5 万円（一括納入）。
- ※ 詳細は本部・総務部（03-3353-2191）までご連絡ください。

仲介者養成コース

正しい仲介のあり方学ぶ

5 月 27 日から 28 日にかけて、仲介者養成コースが御霊地の解脱研修センターにて開催され、40 名が参加した。

午前 10 時半、西村晴雄教務局長の「金剛さまのご精神にそった御



五法修業の目的を理解し、正しい仲介のあり方を学んでもらいたい」との挨拶に始まった初日、主に講義を中心にプログラムが組み、「み教えの基本」「御五法修業の目的と心得」「仲介者の心得」について学んだ。その後、選択講義では修法シートの「初期の霊動について」「法則に反した形」の項を大賀光夫修法部長と岩田始修法部主任からそれぞれ詳しく説明を受けた。その後

の班実修は今回も 2 日にわたり十分に時間が取られ、各班担当のもと実修を行い、生まれた疑問点や現場での悩みが相談された他、休憩中も研修生同士で活発に意見交換し合う姿も見られた。最後に木村正則常任理事から、仲介者として御神前と御五法の尊さを理解し、その導きを信じて御修業を重ねていく大切さを学び、午後 3 時、今年 1 回目の仲介者研修を閉講した。

ビューティ&ヘルスコース

かっさ&沖ヨガで自分磨き



6 月 10 日～11 日、御霊地・解脱研修センターにて、「美人になる法」を学び、「自分らしくかっこいい生き方ができる人となることを目指す」をテーマにビューティ&ヘルスコースが開催され、参加者 32 名が日々の心構えや毎日の生活の中で実践できる健康法や美容法について学んだ。

初日の特別講習 1 では、原里恵氏を講師に招き、中国伝統の民間療法である「かっさ

マッサージ」の講習が行われ、日常生活で実践できる内容で、美容に対する意識を高めた。

2 日目の特別講習 2 では、沖ヨガ協会の中島希依氏を講師に、「沖ヨガレッスン」の実習が行われ、自分自身の体の状態を知ることができた。

研修の最後に、西功義教育部次長は「最高の治療法は世のため、人のためにお使いいただくこと」と結び、研修を終了した。

八王子支部設立10周年記念感謝会

家族一丸となって

八王子支部は6月10日、支部設立10周年記念感謝会を支部道場にて開催、縁ある支部長や親支部会員ら合計94名が参加し、終始和やかな雰囲気で行われた。

当支部は、平成19年に南新宿支部より阿曾沼孝允氏が独立して準支部を設立。同27年の秋には晴れて支部に昇格した。

当日は支部長の義兄・八木優氏作の横幕が掲げられる中、長男・孝仁さんの司会進行、拝礼行事先達は次男・裕二さんが務めた。まず阿曾沼支部長が、先月の御五法修業にて恩師・廣川千恵子氏より、「土地に根付いた布教をすること。家族が



一丸となってみ教えに邁進すること」を指導されたと挨拶=写真。続いて60年来的法友である親支部の廣川貞雄南新宿支部長より、これまでの経緯とともに母・千恵子氏からの勉強を祝辞とした。

出講の関日出夫指導員は、家族一丸となって努める支部長を称え、五法則を丁寧に説明しながらみ教えの尊さを伝えた。続く直会では皆で節目を祝い合った。

須賀神社が例祭



解脱会本部の氏神である須賀神社では6月2日から5日に「例大祭」を催行。本部では、地元・荒木町の神輿を3日にお迎えした。まず午後2時に子供神輿と山車を、午後6時には大人神輿を、それぞれ職員が丁寧に接待させていただいた。

東京第4教区・洗足池弁財天例大祭

地元住民との交流深める

東京第4教区は5月28日、「第48回洗足池弁財天例大祭」を厳粛に行った。本部より岡野英夫顧問が出講し、会員はもとより地元住民も数多く参加し、総勢350名が感謝の誠を捧げた。

祭礼では、千束八幡神社・恵良彰紀宮司祭主の下、第1部・奉祭の儀を執行、

玉串奉奠、拝礼行事、天茶供養を厳修。

第2部の当神社に伝わる放生会では、恵良宮司により放鳥の儀、放魚の儀が行われた後、参加者全員で水への感謝を込めて天茶の撒き供養を厳修した。続いて、恵良宮司による祝辞、岡野顧問による記念講演の後、宇佐美光男教区長がお礼の挨拶を述べた。

第3部では、関日出夫常任理事の発声で乾杯の後、教区鼓笛隊の演奏や会員有志による創作ダンスなどが披露され、解



脱会員と地元住民と楽しい交流の時間を過ごした。

滋賀教区

琵琶湖で感謝の供養祭

滋賀教区では5月28日、第51回琵琶湖感謝供養祭を開催した。本部より中元敏彦指導員を出講に迎え、合わせて149名が参加した。

午前9時45分、参加者たちを乗せたチャーター便が長浜港より竹生島へ向けて出発。船上から琵琶湖へ天茶の功德が行き渡るようにとの願いを込めて撒き供養を行った後、中元指導員の講話により当供

養祭の意義を再確認した。

竹生島に到着後は、支部毎に宝厳寺、都久夫須磨神社などを参拝した後、長浜港へ帰港した。

帰りの船内では昼食が取られ、手作りの弁当を広げながら湖上の景色を楽しむ家族連れやはしゃぐ子供たちの姿が見られ、帰港までのひと時を参加者それぞれ和やかに過ごしていた。



東京第3教区

小河内ダム供養祭



さわやかな天候に恵まれた5月28日、奥多摩湖(東京都奥多摩町)湖畔の工事殉難者慰霊碑前で、東京第3教区主催の慰霊祭が66名参集の下催行された。

首都圏の水道の約20%を供給している奥多摩湖をせき止める小河内ダムは、完成までに945世帯の移転と工事における87名の尊い犠牲があり、この犠牲者を悼んで湖畔に慰霊碑が建てられた。

完成後、水位不足によりダム底の神社仏閣や家屋がしば

しばむき出しとなったことから、故・村山福子福生支部長の呼びかけで昭和42年より同支部を中心に慰霊祭が始まり、その後、教区婦人部の協力で活動が拡大した。

慰霊祭では厳粛に進む中、参加者は尊い犠牲の上に今の水に恵まれた暮らしがあることに慰霊と感謝の誠を捧げた。

その後の直会では、寺嶋豊教区長が「歴史ある当慰霊祭を、今後も多くの人が集えるよう工夫を重ねていきたい」と意気込みを語っていた。

愛知教区

もちつき通じて食の大切さ学ぶ

愛知教区は 3 月 26 日、もちつきを通じて食の大切さを学ぶことを目的にこども会を開催、64 名が集った。

午前 10 時、豊橋八町支部に集合、拝礼行事、中西好子支部長挨拶の後、支部氏神の吉田神社へ移動。お世話になる神社へ挨拶した後、楽しいもちつき大会を行った。昼食後は支部へ戻ってゲームを楽しみ、充実した一日となった。



東京第 6 教区

合同清掃&こども会

東京第 6 教区は 4 月 30 日、合同清掃・こども会大会を開催し、合計 189 名が集った。

絶好の好天の中、10 時半に御霊地・太神社殿前に集合。拝礼行事の後、小学生以下は北本市児童館へ移動し、ボールプールやロッククライミング等で楽しんだ。



一方、大人は御霊地にて大祭準備清掃奉仕に精を出した。今回は特に玉砂利が汚れないように、ビニールシートを被せるなど工夫を凝らした。

京都教区

たけのこ 筍掘り・大供養祭

京都教区は、4 月 30 日にこども会で筍掘りを、5 月 28 日には大供養祭を開催した。

こども会は、晴天の下、山

口逸男氏(京都朱雀支部会員)宅に参加者 48 名が集合。拝礼行事に始まり、山口家の先祖供養に続いて荒井昇担任部



長より行事の意義と命の大切さを学んだ。その後、山口氏所有の竹林へ移動し、みな土まみれになって立派な筍をたくさん

掘り上げた。昼食の後は再び山口宅へ戻り、ゲームを楽しんだ後、採れたての筍ご飯を味わい、最後は筍をお土産に解散となった。



大供養祭は、解脱金剛宝塔前にて行われ、地区会員ら 87 名が集った。田中英次教区長は、「感謝の心で前向きに喜びをもって供養をさせていただこう」と挨拶。回向文奏上後、万霊大供養を厳修。続いて宝塔内齋祀

精霊及び京都教区の先人先覚者へ赤誠の誠をもって感謝のご供養を行い、休憩後は、お靈魂と共にみ教え宣布・人心救済を誓う先祖供養を行った。供養祭終了後は、直会を兼ねて和やかに昼食を取った後、解散となった。

名古屋第 1 教区

氏神清掃奉仕

5 月 21 日、名古屋第 1 教区女性部は、中部道場の氏神である熊野社の清掃奉仕を行い、26 名が参加した。

まず道場で拝礼行事をした後に熊野社へ移動。今回は、当神社氏子総代より熊野社の由来を聞くことができた。

その中では正徳 2 (1712) 年に創建され、熊野三山の祭

またその隣の石碑の縁起には、本会の教統であった岸田英山先生の名前が刻まれていることを皆で確認した。

境内の清掃奉仕に励み、終了後は道場に戻り、道場周辺の土地供養をした後、三聖地巡拝団の出迎え奉仕等、上半期の行事の反省をディスカッション形式で行った。

神を勧請し、主祭神は伊邪那美神であることや、子安社には安産の守護神である木花之佐久夜毘売命が祀られていること等を学んだ。



中部圏域

心に響く話し方学ぶ

5 月 28 日、中部圏域では、中部道場にて出講者研修を開催。良い話を熱心にしても聴衆に伝わらなければ意味はないとして、伝える力を身につけることを目的に行い、名 1、名 2、愛知と各教区より合計 135 名が参加した。

今回は外部講師として話し方研究家・石倉有規氏を迎えて、人前で話す時の基本的な心得を学ぶために、「心に響く話し方～歌うように話そう～」をテーマに講義があった。

当日、午前中は基本的な発声練習から始まり、滑舌練習や音声表現、また、豊かな表現で話す手法や好感を与える立ち居振る舞い、引き寄せリズムなど伝えるための様々な



指導を受けた。午後からは 10 グループに分かれて、午前中の講義に基づいて、ディスカッションが行われた後、圏域担当の近藤貞男指導員より「出講者として伝えること」について学び、研修を結んだ。参加者からは、「素晴らしいみ教えを伝えるために、それなりの伝え方が必要と感じた」等、好評の声が聞かれた。